

意見書

(素案)

令和 8 年●月●日

大三島地区学校適正配置地元代表協議会

令和 8 年●月●日

今治市教育委員会
教育長 小澤 和樹

大三島地区学校適正配置地元代表協議会
会長 越智 秀雄

大三島地区学校適正配置地元代表協議会の意見書の提出について

大三島地区学校適正配置地元代表協議会は、「第 2 次今治市学校適正配置基本方針」（令和 7 年 9 月策定）に基づき、大三島地区の小学校の適正配置を検討するために、令和 7 年 10 月に設置されました。これまでに、●回の協議を経て、次のとおり協議会としての意見を取りまとめましたので、提出いたします。

1 協議事項

「上浦小学校、大三島小学校」の適正配置について

2 協議会としての意見

統合準備が整った後、年度当初から上浦小学校と大三島小学校を統合し、統合校を現大三島小学校の場所に設置する。

3 協議事項に対する考え方

①学校の場所について

当協議会では、「第 2 次今治市学校適正配置基本方針」に示された上浦小学校と大三島小学校の適正配置について検討した。

当地区においては、平成 24 年 4 月の意見書提出から 10 年以上経過し、上浦小学校では複式学級が 2 学級生じるなど急速な少子化が進み、学校過小規模化が進んでいる。

当協議会では、主に統合により同学年の友だちが増えることや、教育面

で充実するといったメリットが考えられた他、複式学級がある学校での、教職員数が少なく学校運営が困難な状況を理解し、小学校の統合には前向きに議論した。

将来的な児童数の減少を考慮すれば、中学校校舎で小中一貫校として施設集約することが望ましいといった意見もあった。一方、9年間同じ校舎で過ごすことによる環境の固定化は、人間関係の固定化とともに子どもにとって刺激が少なくなることや、同一校舎での中学生への影響を考えると時期尚早ではないかという意見もあった。

当地区においては、小中学校を上浦町または大三島町のどちらかに偏らせないでほしい、という意見が強い。

既存の小学校で取り組んでいる体験学習の状況について、移動時間等の事情により、学校から近い場所での体験や、学校から近い地域の人との交流となる傾向を学校関係者からご教示いただいた。

このことから、統合校の設置場所については、専門的見地からの助言を教育委員会事務局に求め、統合小学校を現大三島小学校の場所に設置するという結論に達した。

②学校の在り方について

小学校同士の統合をした場合、1学年1学級である小規模校であることから、一人一人に目が届きやすいきめ細かな指導を続けていただきたい。

そして、特色や魅力づくりについて全国的な事例の中から統合小学校において取り組める事例を事務局から紹介いただいた。

学校関係者からは、デュアルスクールという既に始まっている特色ある取り組みを紹介いただいた。

統合校においては、既存の小学校で取り組んでいる体験学習を再構築し、上浦町、大三島町それぞれでの体験学習に取り組んでいただき、全国的な事例を参考に島内全体を学ぶ体験を行っていただきたい。

また、同年代との交流、中学校の生徒や教員との交流、また他校の児童との交流を図る上で、積極的にICT環境を活用し、距離・時間を超えたつながりを作ってほしいと願う。

4 配慮すべき事項

- 統合に向けて、保護者、教職員、地域と教育委員会が連携を図り、子どもたちの不安を解消していただきたい。また、統合後についても、在学途中で統合する児童の心理的な面に配慮していただきたい。
- 旧町を越えて通学する児童について、安全に通学ができるよう配慮していただきたい。通学バスの便については、始業時間との調整や、クラブ活動後の下校時間にも対応するなど工夫をしていただきたい。
- 学区の児童クラブを存続させ、送迎等の利便性に影響がないよう考慮いただきたい。
- 地域行事などにおいては、統合後も上浦町、大三島町それぞれの地域と学校との協力関係がつかれるよう配慮していただきたい。